

はじめに

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055802

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



研究紀要

第61号

「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発」（2年次）

ーグローバル社会に生きるために必要な資質・能力の育成を目指してー

平成31年

金沢大学附属中学校

はじめに

金沢大学附属中学校

校長 端崎 圭一

本校では、昨年度4月より国立教育政策研究所の研究指定を受け「伝統文化教育を中心とした教科等横断的なカリキュラムの開発」に取り組んでまいりました。この研究は、平成26年度から平成28年度の三年間に行いましたESD（持続可能な開発のための教育）を基盤としております。そこでは、生徒たちの代替案の思考力や多面的・総合的に考える力等の汎用的な能力を教科等横断的なカリキュラムの中で日常的に鍛えていくところに特色がありました。

このESD研究で得たもの、経験したことを活かしつつ、昨年度は、主に二つのことに取り組みました。一つは、各教科等のねらいを達成するために、どのような伝統文化に関わる実践が効果的であるのかの検討です。もう一つは、伝統文化を柱として、教科が連携して取り組むことのできる単元・題材の検討です。いずれも、一定の成果をあげることができましたが、課題も浮かび上がってまいりました。本校が育成を目指す「グローバル社会に生きるために必要な資質・能力」とは何であるのかを、より明確にすべきではないか。積み上げた多くの実践事例を基に、三年間を見通したより体系的な伝統文化に関する教育課程を編成すべきではないか、等々です。

本年度は、これらの課題に取り組みつつ、昨年度策定した学校全体のグランドデザインに、各教科等のグランドデザインを新たに加えることで、研究基盤をさらに強固にするような試みを行いました。

しかしながら、本研究は道半ばでございます。たどり着くべき水準や必要な要素など、不明瞭で未整理なものが、まだまだ多々あります。皆さまからのご指導やご鞭撻をいただきながら、今後も成長をしていきたいと考えております。本紀要をお読みいただき、本校の研究に対する忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、この二年間の研究に取り組むにあたり、懇切丁寧なご指導・ご助言をいただきました文部科学省調査官の藤野敦先生に厚く御礼申し上げます。

平成31年2月